

# 音楽科学習指導案

## 1 題 材 名 曲の構成を理解して、オーケストラの響きを味わおう

## 2 題材の目標

- (1)「ボレロ」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。
- (2)「ボレロ」の音色、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。
- (3)「ボレロ」の音色、強弱に注目し、曲想と音楽の構造との関わりについて関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感受性を豊かにする。

## 3 教 材 ボレロ ラヴェル作曲

## 4 題材について

### (1) 生徒の実態

本学級の生徒は、音楽の授業に意欲的に取り組むことができている。歌唱活動では、生徒同士で教え合ったり聴き合ったりしながら練習を積み重ね、級友と声を合わせて歌い合う喜びを感じている。鑑賞活動では、感じ取ったことや疑問に思ったことを級友同士で共感し、伝え合うことができている。言語活動の充実を目指し、「どのような情景や雰囲気を想像したか」と「それは音楽のどのような仕組みからか」を言葉で表現する活動を積み重ねてきた。1学期で学習した連作交響詩「我が祖国」より『ブルタバ』ではオーケストラで使われている楽器の種類を理解し、楽器の音色を聴き取り、標題の表している情景をもとにイメージし、感じ取ったことを想像しながら自分の言葉で表現できるようになった生徒も増えてきた。しかし、標題など曲の雰囲気の手がかりとなるものがない楽曲の感じ取りには苦手意識をもっている生徒もいる。聴き取った楽器の音色の特徴を言語化することで、曲の雰囲気と結び付ける力を身に付させたいと考えた。

### (2) 教材について

「ボレロ」は、パリで活躍していたロシア系ユダヤ人のバレリーナであるイダ・ルビンシュタインの依頼によって1928年にラヴェルによって作曲されたバレエ音楽である。全体で15分の長さをもつ「ボレロ」は、18世紀末にスペインで流行した3拍子系の舞曲であるボレロのリズムが繰り返し使われ、2つの旋律が交互に現れる構成になっている。曲の構成を捉えやすく、楽器の数や種類の組み合わせによって音色が変化し、曲の終盤に向かって強弱が強くなり、曲想が変化していく音楽の面白さを感じ取ることができる教材である。

### (3) 指導に当たって

「ボレロ」は、バレエ音楽のために作曲された曲だが、近年ではCMやテレビ番組、フィギュアスケートなど様々な分野で用いられ、幅広い世代に親しまれており、生徒にとっても耳なじみのある曲である。第1時では、実際にフィギュアスケートで用いられている映像を見せたり、「管弦楽の魔術師」と呼ばれている作曲者のラヴェルについて調べたりすることで、楽曲への興味関心を高めていきたい。まず、楽曲の冒頭を聴かせ、小太鼓のリズムと2つの旋律が繰り返し演奏されている構成を理解させ、曲想と音楽の特徴とを関連させながら聴かせる。本時では、演奏形態やオーケストラで使用される楽器について振り返り、より楽器の音色に注目し

て聴かせ、音楽の魅力を深めさせたい。冒頭で提示される小太鼓のリズムや2つの旋律が楽器の音色や組み合わせ、強弱などを変化させながら反復し、曲が展開していく面白さを共有させることで学びを深めさせたいと思い、本題材を設定した。

5 本題材で扱う学習指導要領の内容

第2学年及び第3学年 B鑑賞 (1)鑑賞

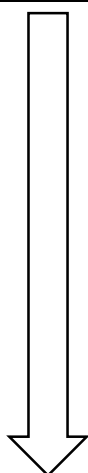
- ア (ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。
  - イ (ア) 曲想と音楽の構造との関わりを理解できるようにすること。
- [共通事項] (1)
- (本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素: 音色、強弱)

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>知</b> 「ボレロ」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	<b>思</b> ①「ボレロ」の音色、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。 <b>思</b> ②「ボレロ」の曲や演奏や評価に対する評価とその根拠について考え、よさや美しさを味わって聴いている。	<b>態</b> 「ボレロ」の音色、強弱に注目し、曲想と音楽の構造との関わりについて関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

7 指導と評価の計画 (本時 2/3時間)

時	◎ねらい ●学習内容 ・学習活動	評価 (◆評価方法)		
		<b>知・技</b>	<b>思</b>	<b>態</b>
1	◎管弦楽曲に関心をもち、作曲者について理解する。  ●第1部を聴き、演奏形態や曲の構成を理解する。 ・オーケストラで演奏されていることを理解し、使われている楽器を確認する。 ・小太鼓がボレロのリズムを刻んでいることを聴き取る。 ・リズム打ちをし、ボレロのリズムを理解する。 ・2つの旋律が繰り返し提示されていることを理解する。  ●ラヴェルについて理解を深める。 ・作曲者の出身国や活躍した時代などをタブレットで調べ、理解を深める。 ・ラヴェルが「管弦楽の魔術師」と呼ばれていることを理解し、楽器の音色に注目し、鑑賞するよう促す。	◆ワークシート <b>知</b>	◆観察	

2 (本時)	◎楽器の音色や強弱に注目し、音楽の特徴を聴き取り、曲の雰囲気を感じ取る。			
	<p>●前時で学習した内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作曲者や演奏形態について確認する。</li> <li>・小太鼓のリズム、2つの旋律が繰り返されて構成されていることを振り返る。</li> </ul> <p>●第3部・第5部を聴き、楽器の音色や強弱の変化を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班で聴きとり、感じ取ったことを共有し、全体で共有する。</li> <li>・楽器の音色に注目し、様々な楽器の組み合わせを変化させながら、進んでいくことを聴き取る。</li> <li>・「ボレロ」の強弱が曲全体を通して、だんだん強くなっていることを理解する。</li> </ul>		<p>◆ワークシート【思】①</p> <p>◆観察</p>	
3	◎楽曲の特徴と曲想の変化との関わりについて考え、楽曲の魅力についてまとめる。			
	<p>●前時までに学習した内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作曲者や楽曲の構成について確認する。</li> </ul> <p>●「ボレロ」の批評文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ボレロ」の演奏を視聴し、楽曲の特徴と曲から感じ取ったことをもとに楽曲の魅力を伝える批評文を書く。</li> </ul>		<p>◆ワークシート【思】②</p> <p>◆観察</p>	<p>◆ワークシート【態】</p> <p>◆観察</p>

## 8 本時の学習

(1) 目標 楽器の音色や強弱に注目し、音楽の特徴を聴き取り、曲の雰囲気を感じ取る。

(2) 展開

学習活動	○指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法	要素
1. 前時の学習を振り返り、本時の目標を確認する。	<p>○前時の学習を振り返り、作曲者や演奏形態について確認させる。</p> <p>○第1部を聴き、曲の構成を確認させる。</p>		
楽器の音色・強弱に注目し、曲想の変化を感じ取ろう			
2. 第3部と第5部を聴き、楽曲の特徴を感じ取る。	○第3部・第5部の音色・強弱に注目し、聴き取った曲の特徴と感じ取った曲の雰囲気を班でまとめさせる。	◇「ボレロ」の音色、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。	音色 強弱
3. 班で聴き深め、考えを共有する。	○各グループの意見をモニターに映し出しながら発表させる。	◆観察・ワークシート【思】	
4. 本時のまとめとして、授業を振り返る。	○第3部・第5部の音色、強弱の特徴と曲想の変化についてまとめ、「ボレロ」を鑑賞する。		

(3) 評価及び指導（手立て）

〈思考・判断・表現〉

A「十分満足できる」と判断される具体的な状況	「ボレロ」の第3部・第5部の音色・強弱に注目し、使われている楽器の種類や組み合わせが変化し、強弱が変化していることや調性の違う旋律が重なっていることを聴き取り、曲の雰囲気が変化していることを感じ取っている。
B「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手立て）	楽器の音色と強弱に注目させ、聴き取るポイントを絞って聴き取らせる。ヒントシートを提示し、曲から感じ取った雰囲気を言葉で表現できるようにする。他者の意見を聞きながら自分の意見に近いものをワークシートに書くことができるように促す。